

# 同窓会報

NO.53  
2010.3

発行 — 〒992-0039 山形県米沢市門東町1丁目1番72号 九里学園同窓会 事務局 TEL 0238-22-0091 FAX 0238-22-0092 <http://all-kunori.net/>



九里祭

書道部発表 8月30日

『We are family!』『あつたかい教育がここにある』……本校が中学生に向けて、今年発行したパンフレットなどに掲げたキヤッチコピーです。多くの方々から「九里の教育をよく表現していますね。」と言われるが多く、とても嬉しく思っています。

「九里に行きたいと言われ当時は迷ったのだけど、本当に楽しそうに学校に行つている姿を見ると、やつて良かったと思う。各地区の保護者会に参加してお聞きする言葉の中に、また「九里なら自分が活かせる」とか、「九里なら自分を変えることができると思った」と生き生きと語る生徒の言葉に、私たち教師は、毎日の疲れが吹きとぶのです。

最近、「特別支援教育」という言葉が多く聞かれるようになりました。色々な障害を持った子供たちにも、その障害を理解し、その子供に合った教育をして、社会人として生活できる応援をしようというものです。しかし実情は、なかなか受け入れてもらえる学校が無く、悩んでいる親子が多いのです。本校では、大変な苦労はあります。不登校だった生徒や、種々の障害のある子供たちにも出来るだけ多くのチャンスを与えたいと思って、今まで必死に取り組んできました。それが、このようなキヤッチコピーを誕生させたのです。

同時に、これで満足せず、この言葉が偽りの言葉にならないよう、努力を続けるためのチェック機能にしたいと思つています。

学園近況

欲しい人の心の温かさ  
校長 九里廣志

# よろしくお願いします

## 新副会長さんの挨拶

小 口 信 子

(S三十六年卒)



佐 藤 勝 子

(S三十四年卒)



十 年 前 に 終 の 住 家 と な る 故 郷 へ  
帰 つ て 来 ま し た。 主 人 の 仕 事 で、  
日本 各 地 を 転 勤 し ま し た。 ど の 地  
も す ば ら し く、 住み 心 地 の 良 い 所  
で し た。 ど も や は り 故 郷 の 緑 に 囲  
ま れ て 心 が 癒 さ れ ます。 会 長 さ ん  
や も う 一 人の 副 会 長 さ ん に 迷 惑 を  
か け な い 様、 この 道 を 全 う し て い  
き ま す。

同窓会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃より母校と同窓会活動のため、お力と关心をお寄せいただいておりますこと、大変うれしく心から感謝申し上げます。

昨年は、NHK大河ドラマ「天地人」が放映され、最近なく米沢市は賑わいを見せました。上杉家の歴史はもとより、直江兼続の業績を通して、人と人との「絆」「愛」「義」そして「学び」

の大切さなどに改めて感じ入ることができたようになります。

九里学園においても、「礼」「譲」のもと、生徒達は勉学やスポーツ、文化活動に励み、素晴らしい成果を上げています。

また、有為な人材として育成されました皆様には、厳しい世相の中でこそ、互いに自信と誇りを胸に一層努められることを期待します。

共に頑張りましょう。

同窓会長 佐 藤 せ つ (S二十三年卒)

# 希望と自信を

9月11日

南 雲 望 美  
(H二十一年卒)

# 和太鼓から 音の粒を感じとる



吹奏楽で打楽器をやっているから分かるのですが、太鼓は音階がある楽器に比べ、「パフォーマンス」が要求されるのです。私にはなかなか難しく、リズム一つ一つに表情をつけて叩いたり、人前で発表したりする際に周りにどういう見せ方をしていいたらいいのかなど、これらに続く課題がたくさんあります。今回の和太鼓演奏はそういう部分全てを含めて、私の中でもっとたくさんの時間がなりました。

毎年開かれる創立記念音楽会。今年は和太鼓による演奏会でした。

私は小学校以来ずっと打楽器に携わってきました。携わってきたと言つても和太鼓を叩いたことがないし、テレビの番組で見たりする程度で、そんなに深く知つているわけではありません。けれども今回の音楽会は私にとってとても貴重な経験となりました。

演奏が始まると、会場中に和太鼓の音の重みと厚み、そして深みが響きわたり、私の身体と心の中にもその音の粒やリズムが入ってきて、瞬く間に和太鼓の世界へと引き込まれました。

様々な種類の和太鼓に合った音の表情や、和太鼓ならではの力強さを感じました。

記念音楽会

(H二十一年卒)

一番大事なのは

職場

訪問

門

## コミュニケーション力

早稲田大学生協主任

石幡敬子

(旧姓 宮澤 S五十九年卒)



職場の仲間たちと

右から二番目(水色のブラウス)が石幡さん

### 総会報告

6月27日

今年も同窓会前会長の竹田かつさんが、とてもお元気な姿で参加されたので、皆さん大変喜んでおられました。九里茂三学園長先生が欠席でとても残念でした。次回は是非出席していただきたいものです。今回の集いは、参加者の皆さんのが温かくなつたのではないかと思つております。

「いらっしゃいませ!」毎日明るい声が飛び交う職場。私が勤務する早稲田大学生協です。組合員である学生教職員に、生活に必要なもの(教科書、文具、食堂、自動車教習所、旅行など)の提供が主な事業ですが、その中で生協や共済の加入、住まい紹介を担当しています。

早稲田大学はとても大きな大学で、全国から多くの学生が集まります。(もちろん米沢からも) 内部進学や推薦などさまざまな入試形態があるので、「どの時期に」「どういった案内を」作って配るか。そのためには大学の各箇所と連絡を取り合い情報を得るが仕事の要です。

チラシや広告を作ったりする技術も必要だけれど、やはり一番大事なのは

## 山上学話会の皆さんによる 上杉剣舞

塩野目寿美子 (S36年卒)



通町に伝わる上杉剣舞

「よう! 元気だったか」「…さん久しぶりだつたな」「先生少し白髪増えてきたなあ」といろんな言葉があちらこちらで沢山飛び交っていました。自分達の年齢はあまり関係ないようで、皆さん輪になつてワイワイと本当に楽しそうに話をしているいました。心はもう高校生に戻つておりました。

遠藤岩根先生の講演。岩根先生の授業は久しぶりと思われた方もいらっしゃったのではないかでしょうか。詩吟大会で日本一になられた同窓生の佐藤多恵子(H5年卒)さんに詠じていただき、さらに通町に伝わる上杉剣舞を山上学話会の皆さんに舞つていただきました。

## 親子三代

### 九里です

●黄木 敏子さん  
(旧姓 斎藤 S19年卒)

●黄木 典子さん  
(旧姓 細谷 S56年卒)

●黄木身智予さん  
(H21年卒)

●黄木 久実さん (2年在籍)



(S五十二年卒 高橋 有子 記)

今二年生の次女の久実さんは、おいしい料理やお菓子を作るのが大好きといふ特技を生かせる職業をみつけるために、頑張っています。

昨年卒業された長女の身智予さんは、鬼怒川温泉のホテル「あさや」で、客室係として頑張っています。大きなホテルの中でフロントに入ったり、売店の手伝いをしたりと経験を積んでいますが、お客様に「良かった、また来るよ。」と言われるのが、元気の素とか。十三階にある露天風呂がすばらしいそうです。

お母さんの典子さんは、普通科の家庭・被服コースで学ばれ、浴衣からスースまで仕上げられたそうです。また、剣道部に所属し、夏休みの汗と涙の合宿の話や、亡くなられた顧問の吉田先生との話など、少ししんみりとしてしまいました。

今回「親子三代」のお話を伺ったのは、泉町にお住まいの黄木さん御一家です。

おばあさんの敏子さんは、昭和十九年三月に卒業されたそうです。戦時中で和裁に必要な反物もすぐに用意できず、近所の方の反物を授業で仕立てたりして、工面なさったそうです。普段は優しいのに、授業の時はとても厳しい九里とみ先生の話や、本科や専科の違いなど「和裁の九里」といわれた頃の話をたくさん伺いました。

お母さんの典子さんは、普通科の家庭・被服コースで学ばれ、浴衣からスースまで仕上げられたそうです。また、剣道部に所属し、夏休みの汗と涙の合宿の話や、亡くなられた顧問の吉田先生との話など、少ししんみりとしてしまいました。

何事もパワー全開 佐藤清子さんを訪ねて

同窓会に三十一文字のお便りが届きました。「Uターン十八年の朝夕を亡夫と語らい健やかに生く」「現身をより佳く生きんエコ暮らし鍋と薬缶を日差しに出しぬ」他七首

この方には是非会ってみたいということで今泉にお住まいの佐藤清子さんを訪ねました。

清子さんは昭和十九年専攻科を卒業されましたが、九里時代は戦争中だったので授業ではなく、軍服のボタン付けをした記憶があるそうです。長く神奈川で暮らされ、御主人を亡くされてから古里に戻られ、御自宅を新築、燎々と日の当たる大きな家に悠々とお住まいでした。趣味を沢山持つておられ、書道は師範、鎌倉彫・日本画・短歌・川柳を詠まれ、世相に感じたことを山新に日々投稿されておられます。

更にグランドゴルフでは、オーストラリア、中国



右が佐藤清子さん 左が筆者

等々に遠征され、幅広く活躍されておられます。八十一歳の時には靈山の岩場に咲く麝香草を見て感激されたそうです。

心惹かれるものにはなんでも挑戦される心意気こそ佐藤さんの原点だと思いました。何事もパワー全開に取り組まれることに圧倒されながら、元気に生きる知恵をもらつてきました。



演劇部は、自分の持つている力を生かす場、それぞれが協力し最高に集中した時に、最高の演劇ができると頑張っています。演劇はキャストだけが目立ちがちですが、実はキャストだけでは演劇は作ないので、公演にいたるまでの準備、公演のときのスタッフの仕事のなんと多いこと!今年の定期公演は十四人の部員でキャストが十二人の「11匹のネコ」を上演し目の回る忙しさでした。現在、観て楽しんでもらえる劇、笑ってもらえる劇の楽しさに目覚めて、生徒創作脚本の練習にかかりています。

(顧問 鈴木 淳子 記)

みんな大事、  
クラブしようかい

みんな大事、  
演劇部。



## 誇りに思う サッカー部と生徒会活動

新野智広（H十七年卒）

この度、「私の高校時代」の執筆を依頼され、九里学園での高校生活を振り返り、とても懐かしい気持ちに浸っています。

私は自分自身の高校時代を今でも誇らしく思っています。生徒会長として古き良き伝統を守りながらも、自分達の日々の学校生活がどうすれば充実するのかを常に考え、新しい取り組みへの挑戦を繰り返しました。

高校時代は適当に過ごしても三年間、何かに夢中になり過ごしても三年間です。今の私が高校時代を誇らしく思えるのは、学校生活に夢中になっていた証だと思います。

部活動では、サッカー部の創部以来初となる高校総体地区優勝を達成できました。あの日の喜びは忘れることができません。

社会人となり仕事に追われ、苦しい時に過去の思い出が背中を押してくれます。私の高校時代を素晴らしい思い出で一杯にしてくれた恩師や友人は、これからもずっとかけがえのない財産です。

\* \* \* \* \*



お久しぶりです 皆様  
ソラビア満在記

# ザンビア滞在記

鈴木 精 先生

青年海外協力隊員としての二年間の活動を終え、二〇〇九年六月に帰国しました。リアル・アフリカと呼ばれ、アフリカの古い習慣、文化がまだ色濃く残るザンビア共和国での生活、そして現地の人々との交流、活動は私にとって生涯忘されることのできない貴重な体験となりました。

笑みとハグに  
勇気づけられて

多くの活動を行つてきました  
も明るく優しいザンビア人た  
れ、充実した日々を送ること  
た。日本人、ザンビア人とい  
同じ目標を持つて同志として  
そ多くの感動を得られました  
ったアフリカ、ザンビアは広  
く囲まれ、活力に満ち、おおら  
かに空気には包まれた大地の温  
かくがでできるところでした

ユースクラブのメンバーもとても優しくおおらかで、真剣にこの国を憂い、なにか貢献したいと考えている素晴らしい若者たちでした。彼らと過ごす時間もとても楽しく、若者のH.I.V予防啓発活動をメインとして、H.I.Vの予防を訴える寸劇や詩、歌を作り、演じたり歌つたり、サッカーラブを立ち上げて練習を積んできました。

ユニティセンターで、私はセンターのアドバイザーとしてその運営や自助自立に関わる活動を行いつつ、センターが運営するスクールの先生として、また、ユースクラブや裁縫学校のアドバイザーとして現地の人々とともに活動してきました。学校の同僚は誰もが明るく、毎日歌ったり踊ったり冗談を言い合ったりして笑いが絶えませんでした。子供たちも人懐っこく、とてもひたむきに短い伸びた鉛筆を持ちながら授業に励み、また、時に現地語を教えてくれたり、現地の遊びを教えてくれたりしました。その満面の笑みと彼らのハグ（軽い抱擁）にどれだけ勇気づけられたことか知れません。

## 九里祭参加 同窓生作品展 (8月30日)

観  
見  
節  
子  
記  
(S三十九年卒)



### 古希を過ぎての クラス会 (5/17)

#### クラス会



今後は地域間で活発な交流をし、学園と繋がりが出来るようにしたいです。  
翌日米沢に行き、「天地人博」を見学しました。

した。

(S三十年卒 吉川 寧子 記)

## 編集後記

正月恒例の箱根駅伝は今年で86回を数えます。優勝した東洋大は長い伝統の中で掴んだ連覇です。弛まぬ努力の成果でしょう。一世紀以上の歴史を持つ我が母校も時代に翻弄されることなく、着実に歩んだ一歩が新しい歴史となって刻まれていくのです。(新井千香代 記)

(2) 封書、はがき(表紙の住所をご覧下さい)  
(1) メールあて先  
dousou@tw.kunori-h.ed.jp

■ 投稿はメール、封書、はがきでお送り下さい。  
アドレス <http://all-kunori.net/>

ALL  
くのり  
ねっと



● 同窓生の集い(総会)は六月二十六日(土)です。その運営担当は卒業した年が八と九のつく学年(昭和二十八・二十九、三十八・三十九、四十八・四十九、五十八・五十九、平成八・九・十八・十九)です。詳しくは別紙を参照下さり、申し込みいただきますようご案内いたします。チケットは音楽会係の同窓生が学校事務局からお求めください。

● 同窓生の集い(総会)は六月二十六日(土)です。その運営担当は卒業した年が八と九のつく学年(昭和二十八・二十九、三十八・三十九、四十八・四十九、五十八・五十九、平成八・九・十八・十九)です。詳しくは別紙を参照下さり、申し込みいただきますようご案内いたします。チケットは音楽会係の同窓生が学校事務局からお求めください。



## 勇気が財産に

横山孝子

(旧姓 水野 S四十六年卒)

「そう!」高校時代はまさしくこの太陽のような情熱・明るさ・温かさに触れたくて図書館に通い、めげることの多い思・青春期に勇気をもらいながら通過したのでした。この勇気は財産になっています。

大久保さん、本当にありがとうございました。今回の機会を立ち上げ、労を重ねてくれたスタッフの皆さんに大感謝です。

同窓生室では、手芸、刺し子、書、コサージュ、陶芸、ミニ盆栽、生け花と多彩な作品が寄せられ、中でも飯豊支部の皆さんのお手芸の出品は、毎年恒例になっています。多くの作品は、来場者の目を楽しませてくれます。手作りコーナーでは、フェルトで木の葉の形をした、コースターを作りました。

卒業生の皆さん、手作りの作品を、出品してみていかがですか?

（S三十九年卒）

## 大久保洋子さんを囲む会 (9月20日)

